

この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

no. 55

吉祥寺本町
一丁目にて



この作品は、吉祥寺本町一丁目の五日市街道沿いで描いた風景である。写生中に、通行人に声をかけられることもあるが、あいさつ程度なので、気にはならない。一方、海外での写生は、こうはならないケースが多い。

私は、旅行会社からの依頼で、よく海外にスケッチ旅行に行っている。今まで、五十五カ国の国々を訪問しているが、ほとんどが絵画教室で学んでいる方々と一緒に旅行である。

海外では、観光地などで絵を描いていると、必ずといっていいほど、人が寄ってくる。私が英語を話せると分かると、質問会のようにいろいろと話しかけてくる。そして、絵が仕上がりに近づくと、一緒に写真を撮るということになり、カメラの前でポーズをつくることになる。本音は、絵に集中したいところだが、これもささやかな国際親善の場だと思って、笑顔で対応することになっている。

(絵と文・大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おおすかかずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。